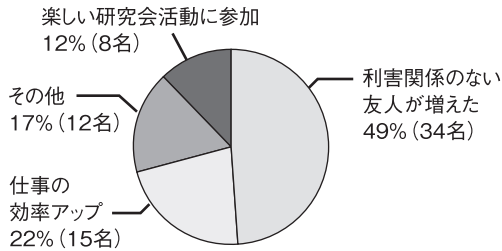


10期生アンケート

- アンケート実施方法 Google ドキュメント
- 回収数 56名 (回収率 93%)

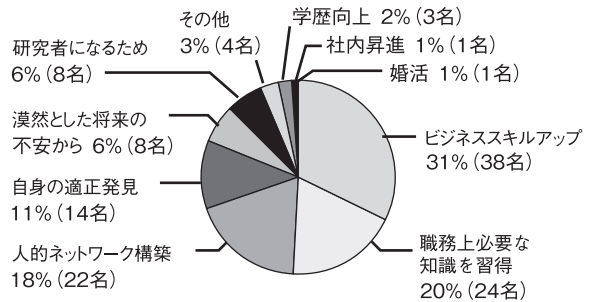
Q1 入学後に感じた自分自身の変化は？ (※複数回答可) (総回答数 69)



友人の増加が約半数

1番多かったのは、友人の増加でした。やはり、色々な分野の方がいらっやるので、普段の仕事場では会えないような人との交流が増えたということでしょうか。修了時に、この数値が下がったりしていないといいですね(笑)。次に、多かったのは仕事の効率アップでした。これは、授業開始に間に合わせる為に効率が上がったかもしれませんね。その他の中には、疲れが溜まるや、まだ実感が無いという回答もありました。

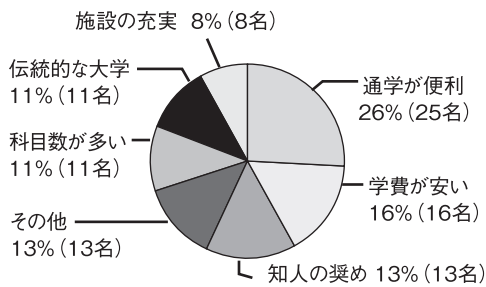
Q2 MBAを目指した理由・学ぶ理由は？ (※複数回答可) (総回答数 123)



「ビジネススキルアップ」に変化が…

毎年同じ質問を行い「ビジネススキルアップ」は回答者数の約8割の回答を占めます。今年は、回答者が56名で38名の方から回答頂きましたので、約7割となり、昨年より少しですが減少しています。一方で、「職務上必要な知識を修得」や「自身の適正発見」といった回答が昨年と比べて増えており、全体的に分散した結果となりました。また、「研究者になるため」と回答された方は昨年より5名増えています。

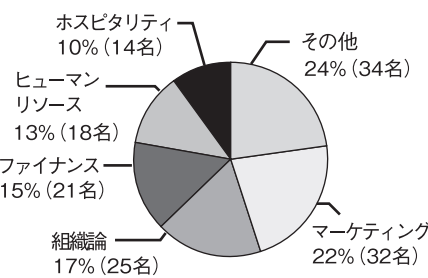
Q3 立教大学を志望した理由は？ (※複数回答可) (総回答数 97)



通学の便利さとリーズナブルな学費が強み？

今年も、通学の便利さと学費の安さが上位となりました。やはり、仕事しながら通われる方が多いため、池袋という立地は魅力的なんでしょうか…。注目なのは、3位の「知人の奨め」です。これは、RBS卒業生からの評価が高いという事でしょうか。

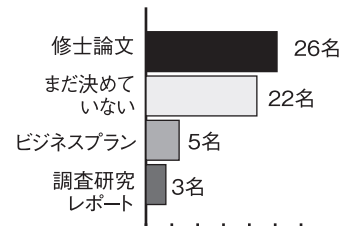
Q4 立教大学で学びたい科目は？ (※複数回答可) (総回答数 144)



ジェネラリストのスペシャリスト養成だけあって…

学びたい科目は多種多様です。MBAの定番ともいえる「マーケティング」「組織論」「ファイナンス」はもちろん、「ヒューマンリソース」「ホスピタリティ」などもかなりの支持があります。その他がかなりのウエイトを占めています。院生1年生が、ビジネスの基本である「ヒト」「モノ」「カネ」+「情報」をしっかり学びたいという強い意思が感じられます。

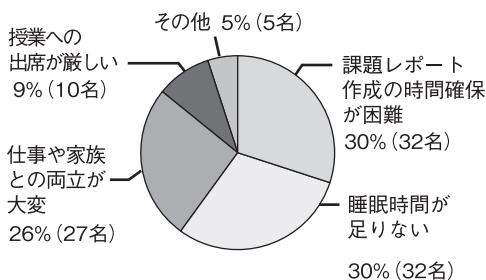
Q5 修了はどれで考えている？



既に、修士論文を考えられている方が多数

現時点では、修士論文で修了する予定者は46%おり、始業してから約3か月で約半数の方が修士論文を考えているようです。

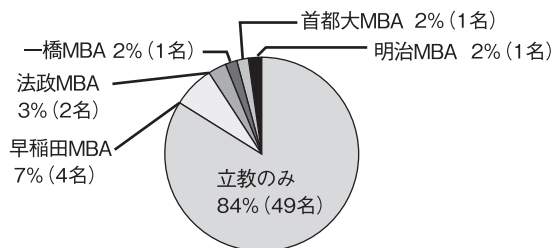
Q6 入学後、困っていることは？ (※複数回答可) (総回答数 106)



課題レポートの負担と睡眠不足

社会人MBAの一番の悩みは、時間の確保。仕事や家庭、そしてMBAでの学びは、近江商人の三方よし(売り手よし、買い手よし、世間よし)ではないですが、多くの10期生が苦勞しているようです。「頑張れ! 10期生、未来のMBAホルダー目指して!」

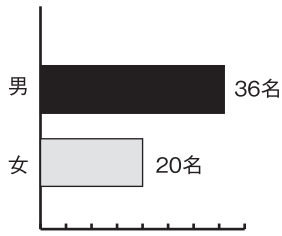
Q7 立教以外に受験したMBA (※複数回答可) (総回答数 58)



立教大学受験者の約8割は他大学院に興味ナシ!?

立教のみという方が、全体の84%(49名)、次いで早稲田MBA 7%(4名)、法政MBA 3%(2名)と続き、圧倒的に立教のみが多い結果となっています。選択決定要因と思われる「Q3 立教大学を志望した理由は?」の通り、通学が便利!学費が安い!知人の奨め!が大きく関与しているのでしょうか?また一方で見方によっては、競合となる学校が少ないとも推察され、立教MBAは特有なポジショニングをしているのかも知れませんね。

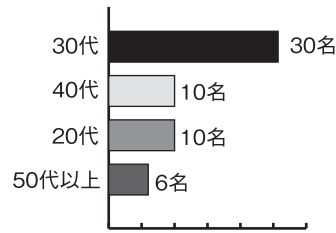
Q8 あなたの性別は？



男女構成比は昨年と同じ

今年は男性が64%(36名)、女性が36%(20名)となりました。過去のデータを見てみると、一昨年の8期生は、男性79%女性21%、昨年の9期生は、男性64%女性36%となっており、女性比率が増加傾向にありましたが、昨年と同じ構成比率となりました。学ぶ意欲に年齢や性別は関係ありませんから、皆さん共にがんばりましょう!

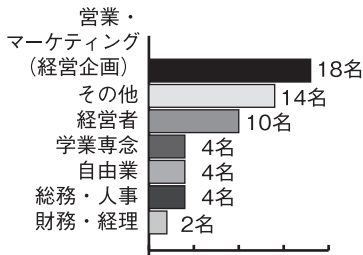
Q9 あなたの年齢は？



30代が約半数

Q2の結果にも表れている通り、30代を中心に今の会社内だけではない、現場で通用する知識やスキルを求めている! これも今の不透明な時代を象徴するものの一つと思われます。

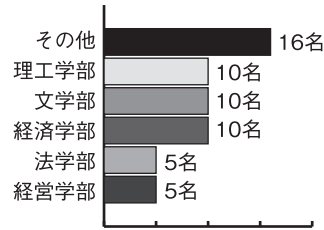
Q10 あなたの職業は？



営業、マーケティングの割合多い

営業やマーケティングなど現場に近いところでビジネスをされている方が、MBAで実践に即した理論を学ぶ必要性を感じているということかもしれませんね。また経営者の方が比較的多いというのも、MBAで学ぶことが「実際の経営に役立てられる」と考えられるのことで推察出来ます。

Q11 あなたの出身学部・系統は？



出身学部は多種多様

やはり社会に出てから現場で、経営やビジネスに関わる知識や理論の重要性を感じて、MBAを志した方が大半ではないでしょうか。各々の経験をもとに「みんなで刺激し合い、向上することが出来る!」それがMBAの醍醐味ですね。

(編集担当: 戸塚、片山、塚田、笹本)

新任講師の質問!

(新任講師) 佐藤 猛 先生

Q1 専門(研究)分野は何ですか。

専門はファイナンス理論を利用した証券市場論ですが、特にクラッシュを中心としたプライシング理論が中心です。こうした研究は少し浮世離れしていますが、面白い世界です。理論の蓄積が楽しいので余り現象面的な分析は行っていません。いまはサブプライム問題における CDO プライシングに関する倒産リスクを研究中です。新しい考え方は非常に魅力的です。こうしたクラッシュを中心とした論文は多くあるので、それらを編纂しているところです。多分これからこうした研究スタイルは変わらずに続けるつもりです。

Q2 今までの主なキャリア(前職等)を教えてください。

大学を卒業して東京証券取引所に入所しました。そこでは特に上場部で国内と外国の企業審査に従事しました。その間、パリ取引所に派遣されたり、調査で SEC 等を訪問したことは楽しい思い出です。その間、働きながら社会人の大学院に通いました。ここでは実務と違って理論が大変、新鮮に感じました。大学院に在籍時、大学の施設が良かったので、大学に誘われました。こうしたことから日本大学商学部で証券市場論と金融商品論(デリバティブ)を教えることになりました。一昨年、フランスで在外研究をしました。本務校ではフランス文献も担当しています。

Q3 趣味は何ですか。

趣味らしいものは持ち合わせていませんが、敢えて言えばクラシック音楽を聞くことでしょうか。若い時、小遣いはすべてレコードに消えました。今はこの膨大なレコードの保管に四苦八苦しています。特にベームのブラームスが大好きです。またフランス映画(それ以外の映画はほとんど見ません)も大好きです。いまはサンドリーヌ・ボネールがお気に入りです。また最近、健康維持のために毎日1時間ほどウォーキングをしています。近くに雑木林が多くあり、気分転換にはよい。鍛えた脚力で1日中、パリを散策したいと夢見ているところです。

Q4 どのような授業を行ないたいと思われますか。

授業に参加してくれている学生は企業の一線に活躍している社会人が多いので、逆に理論的な内容を中心に授業をしています。なぜなら多くの実践的なもの、それから現在の経済的な現象分析の深さは理論に依拠するからです。知識や理論には寿命がありますので、出来る限り長いものをセレクトして体系的に講義したいと思っています。こうした考えは自分自身の体験に基づくものです。面白いけれど、後で受講してよかったと思えてくれればよい。いまはポートフォリオ理

論とデリバティブ理論を集中的に講義して、これをパソコンで計算するようにしています。成熟したワインの香りを醸し出すような授業をしたいと考えています。

Q5 今までの寄稿した論文や執筆した本を教えてください。

単著『証券市場の基礎理論』税務経理協会 2008.3. 共著『資本とはなにか』評論社 2008.9. 論文「サーキット・ブレーカーの一考察」2008.12. 「オプションの変容」2009.3. 「証券市場の均衡理論に関するノート」2009.3. 「フランスにおけるサブプライム危機の捉え方」2009.3



Q6 RBSの生徒に期待することは何ですか。

これから、ますます企業の国際化と同時に多様化が進展するでしょう。この状況に適應できる能力を身につけてほしい。それには、はっきりした自分自身のアイデンティティと多くのデファクト・スタンダードに対応した理論が必要です。ですからRBSでの一定の見える成果よりも、将来に結び付き勉強してほしいと思います。ナレッジ・ソサエティでは一生、勉強し続けなければなりません。そしてこの期間にどん欲に多くの知識と理論を学んでほしい。よい機会ですから共に学ぶ人々とのネット・ワークも広げること忘れずに。こうしたすべてが将来の礎になります。共に頑張りましょう。

Q7 現在、興味がある研究分野があれば教えてください。

興味ある研究分野はたくさんありますが、いまファイナンス理論の源流という歴史的考察に興味を持っています。特にフランス生まれの金融工学の祖といわれているルイ・バachelierの理論とその時代背景です。そこにはオプション取引や先物取引の原理やその基礎商品の国債、ひいては19世紀後半から20世紀のフランスの経済状況(ベル・エポック)も垣間見ることが出来ます。時間が出来たら研究したいテーマです。古き訪ね現代をみるのも一法であろうと思っています。

Q8 その他、メッセージがあればよろしくお願いたします。

授業は夜が遅く少しキツイですが、それでも熱心な学生から逆に力をもらって、頑張っています。教える力は教える側の力量も必要ですが、学生たちが引き出すこともできる。是非、多くの教える力をたくさんの素晴らしい先生から引き出して下さい。皆さんが入学してよかったと思えるRBSになるように、末席ながら努力したいと思っています。そして、ともに素晴らしいRBSを作り上げていきましょう。

(インタビュー・編集担当: 小俣、村瀬)